31P-0939

薬剤師によるパキスタン洪水救援活動②

○原田　真理[1], 下石　和樹[2], 堀　治[1]（[1]武蔵野赤十字病院薬, [2]熊本赤十字病院薬）

【はじめに】パキスタンでは 2010 年 7 月下旬から季節風の影響により記録的な大雨が降り、南北に流れるインダス川が増水し、過去 80 年間で最悪の水害と言われるほどの洪水被害が各地で起こった。日本赤十字社の要請を受け、フランス赤十字と合同の基礎保健緊急対応ユニット（BHC-ERU）2 班メンバーとして 10 月 1 日から一カ月間現地で医療保健活動を行った。【活動内容】初動班とは異なる場所での活動となり、新しい活動拠点に移ったばかりの頃に現地入りした。倉庫内には医薬品や医療資機材が入っている段ボールが山積みになっていた状態であった。倉庫内に棚を設置し医薬品を整理して薬局を立ち上げると同時に、現地スタッフを雇用し 2 か所での巡回診療と地元病院での母子外来の開設が慌ただしく始まった。初動班の薬剤師がすでに一度医薬品の確認と在庫管理のための Excel を作成してくれていたため、円滑に活動を開始することができた。母子外来用の医薬品と医療資機材の準備と管理、巡回診療用の医薬品と医療資機材のセットの作成と管理を行った。医薬品管理や在庫管理に加え、母子外来での調剤補助や巡回診療にも同行し、現地スタッフとともに医療活動を行った。【考察】国際救援での薬剤師の活動はまだ始まったばかりであり、国際救援での薬剤師の役割や必要性が明確なものになっていない。今回、緊急救援に初めて参加し、実際に活動を通して様々なことに気付いた。初動班そして活動が軌道に乗るまでの薬剤師の役割は大きなものであると実感した。医薬品管理の基本構造を薬剤師が構築することで、後続班での医薬品管理が行いやすくなり、その結果円滑な活動に結び付くと考える。また、国際救援活動での薬剤師の仕事は多岐に渡り、今後様々な場面での活躍の必要性があると示唆される。